

教科（科目）	商業（財務会計Ⅰ）	単位数	3	学年（コース）	3学年 ビジネスコース
使用教科書	実教出版 『高校財務会計Ⅰ 新訂版』				
副教材等	実教出版 「最新段階式簿記検定問題集全商1級会計」 実教出版 「全商簿記実務検定模擬試験問題集1級会計」				

1 学習目標

財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務諸表の意味や役割について理解させるとともに、会計情報を提供する能力と態度を養う。
- ② 財務諸表および会計情報をビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。

3 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）と方法	時間	評価方法
4	第1編 財務会計の基礎 第1章 企業と企業会計 第2章 企業会計制度と会計基準 第3章 企業会計の歴史	・企業会計の意味・役割、財務会計の機能 ・企業会計制度、会計法規、会計基準、財務諸表の種類 ・海外の歴史、日本の歴史	1 2 1	
5	第2編 資産 第4章 資産の分類と評価 第5章 流動資産（当座資産） 第6章 流動資産（棚卸資産・その他流動資産） 第7章 固定資産（有形固定資産）	・資産の意味と分類、評価 ・現金預金、受取手形、売掛金、有価証券 ・棚卸資産の意味と種類、取得、払出、期末評価、売価還元法、その他流動資産 ・有形固定資産の意味と種類、取得原価、期末評価	2 4 4 3	課題提出 中間考査
6	第8章 固定資産（減価償却） 第9章 固定資産（無形固定資産） 第10章 固定資産（投資その他の資産）	・減価償却の意味、計算、固定資産の買い換えと除却 ・無形固定資産の意味と種類、取得原価、期末評価 ・投資その他の資産の意味と種類、期末評価	3 2 2	
7	第3編 負債と純資産 第11章 負債	・負債の意味と分類、流動負債、固定負債、引当金、偶発債務	8	課題提出 期末考査
9	第12章 純資産	・純資産の意味と分類、資本金、資本剰余金、利益剰余金、自己株式、評価・換算差額等 新株予約権	9	
10	第4編 損益計算 第13章 損益計算の意味と基準 第14章 営業損益の計算 第15章 経常損益の計算 第16章 当期純利益の計算	・損益計算の意味、収益・費用の意味と区分、損益計算の基準 ・営業収益、営業費用 ・営業外収益、営業外費用 ・特別利益、特別損失、法人税住民税及び事業税	2 5 2 2	課題提出 中間考査
11	第5編 財務諸表の作成 第17章 貸借対照表の作成 第18章 損益計算書の作成 第19章 その他の財務諸表の作成	・貸借対照表の作成 ・損益計算書の作成 ・株主資本等変動計算書の作成	12 10 2	課題提出 期末考査
12	第6編 連結財務諸表 第20章 連結財務諸表の目的と連結の範囲 第21章 連結財務諸表の作成（その1） 第22章 連結財務諸表の作成（その2）	・連結財務諸表の目的、連結の範囲 ・支配獲得日における連結貸借対照表の作成、子会社の資産および負債の時価評価 投資と資本の相殺消去 ・連結決算の手続き、開始仕訳、当期分の連結仕訳、連結財務諸表の表示方法	2 3 5	
1	第7編 財務諸表の活用 第23章 財務諸表分析	・利害関係者と財務諸表、財務諸表の入手、財務諸表分析の意味と方法 関係比率を用いた分析、成長性の分析、財務諸表分析の実際	10	全商簿記検定1級（会計） 課題提出 学年末考査

計96時間(55分授業)

4 課題・提出物

- ・各学期ごとの定期考査と課題提出があります。
- ・各種検定の受検をします。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
企業会計の意味・役割や制度、財務諸表の作成、財務諸表の活用について興味を持ち、積極的に学習に取り組んでいる。	企業会計に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、工夫する能力が身に付いている。	会計の基礎的・基本的な考え方と技術を習得し、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともにその成果を的確に表現できる。	会計の基礎的・基本的な考え方と財務諸表作成に関する技術、財務諸表の活用について理解している。

- 以上の観点をふまえ、
- ・学習に対する意欲や態度、思考力や表現力など
 - ・検定に向けての取り組みや出欠状況など
 - ・定期考査や課題提出、および締め切りの厳守などを総合的に評価する。